

横浜市と国立大学法人横浜国立大学は 「都市及び地域の再生・活性化に係る連携・協力に関する包括協定」 を締結しました！

横浜市は、中期4か年計画に「大学と連携した地域社会づくり」と位置付け、大学の持つ知的資源や人材をいかし、市内経済の活性化や市民への生涯学習の場の提供、市民との協働による地域課題の解決にむけた取組を進めています。

本日、横浜市と国立大学法人横浜国立大学（以下「横浜国立大学」という。）は、「都市及び地域の再生・活性化に係る連携・協力に関する包括協定」を締結しました。

両者の協力により、都市及び地域社会の課題解決を、また大学の教育・研究機能の向上を図ることで、地域社会の発展を目指します。今後は、この協定のもと、連携・協力して地域課題の解決に資する取組の実施、検討を進めていきます。

◆連携・協力事項

次の事項について連携・協力をします。

- 1 人材の育成・交流に関すること。
- 2 都市及び地域の再生・活性化に関すること。
- 3 産業の振興に関すること。
- 4 産学公の連携に関すること。
- 5 都市及び地域の国際化の推進に関すること。

◆横浜市と横浜国立大学が連携している主な取組

横浜国立大学と横浜市は、既に60年以上のつながりがあり、旧制教育機関の設立まで遡れば、130年以上のつながりがあります。長い間、ともに連携・協力して地域社会の発展を目指した取組を行ってきました。

■相鉄いずみ野線沿線の次世代のまちづくりの推進

市民、横浜市、横浜国立大学、民間企業等が連携し、相鉄いずみ野線沿線の郊外住宅地等をモデル地区として、超高齢社会に対応した持続可能な地域への再生をめざして地域課題解決の取組を推進。

■かび臭発生生物の画像認識による自動計測技術の開発

浄水処理の水質管理にかかせない水源生物の効率的監視を可能とするため、横浜市と横浜国立大学が共同で、横浜国立大学が持つ最先端の画像認識技術“進化的画像処理[®]”^{*}を用いた自動計測プログラムを利用し、浄水処理障害生物の自動計測システムを開発。

^{*} “進化的画像処理”は横浜国立大学の登録商標である画像処理自動構築法。

■ベトナム社会主義共和国ダナン市と持続可能な都市発展に向けた技術協力

横浜市は、国際技術協力事業の一環として、本年4月にダナン市と都市づくりに関する覚書を締結。また横浜国立大学は、長年にわたってダナン大学と連携を推進。今回の横浜市とダナン市との覚書締結式には、横浜市とともに横浜国立大学も参加。今後のダナン市の都市課題解決に向けて、引き続き横浜国立大学と連携を行いつつ取組を推進。

■キャンパス内に認可保育所を開設

24年4月にキャンパス内に認可保育所を開設し、地域住民に開放。

【参考：国立大学法人横浜国立大学の概要】

所在地：横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1

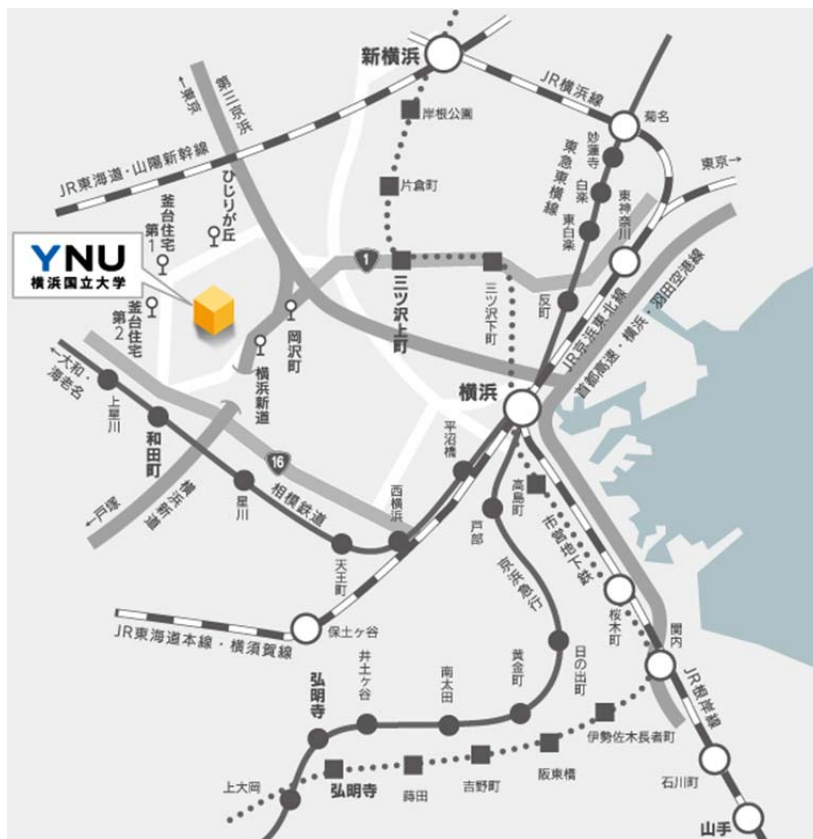
学部：4学部(教育人間科学部、経済学部、経営学部、理工学部)

大学院：1研究科・4学府(教育学研究科、国際社会科学府、工学府、環境情報学府、都市イノベーション学府)

学生数：10,112人(学部7,535人、大学院2,577人)(24年5月1日現在)

教職員数：1,024人(24年5月1日現在)

目標：現実の社会との関わりを重視する「実践性」、新しい試みを意欲的に推進する「先進性」、社会全体に大きく門戸を開く「開放性」、海外との交流を促進する「国際性」を、建学からの歴史の中で培われた精神として掲げ、21世紀における世界の学術研究と教育に重要な地歩を築くべく、努力を重ねることを宣言し、国立大学としての社会的責任を果たすことを目指している。



お問い合わせ先

横浜市政策局大学調整課長 永木 宏一郎 Tel 045-671-4271

横浜国立大学総務部総務課長 平野 昌男 Tel 045-339-3011